

農業・農村の学び場を ～ふるさと・水と土指導員の取り組み～



山梨県の市川三郷町にある黒沢開田地区は、甲府盆地の南端に位置し、富士川沿岸の自然豊かな農村地域にあります。この地域においても高齢化や農業の担い手不足が問題となつていますが、今回はそれらを解決し、地域を活性化させようと奮闘している「ふるさと・水と土指導員」の方々の取り組みを紹介します。

地域を元気に！ ふるさと水と土指導員

黒沢開田地区を取りまとめているのがふるさと・水と土指導員に任命されている佐々木睦昌さんです。佐々木さんは地域の水利組合である黒沢開田組合(20人)の方々と協力し、主に学校教育と連携した農業・農村の活性化に奮闘しています。

夏には地元市川南小学校の子ども達を対象に、生き物調査や、子ども達に農業を知ってもらいたいという思いから県の「でんどうじゃん甲斐プロジェクト」を活用してサツマイモ栽培の農業体験事業を毎年行っています。収穫後には、小学校の児童と地域の住民との交流を図るため焼き芋大会を開催し、賑わいをみせています。

また、同小学校の児童に農業や農村に興味をもってもらうため、菜の花の多面的な役割について理解をもらう出前事業を行っています。

秋には、「花の郷こせえるじゃん甲斐プロジェクト」を活用して県道沿い一面に綺麗な花が咲くように、地元の保育園児と一緒に様々な種類の景観作物の種まきをしています。毎年、県内外からも景色を親にみる方がいる程評判が高く、ちょっとした写真撮影の人気スポットにもなっています。

佐々木さんについてみました

①活動を始めたきっかけは？

遊休農地を解消することで、地域に少しでも活力を与えることができるのではないかと奮起し活動を始めました。

②活動をする中で困っていることはありますか？

多いときには30人以上いた、一緒に活動にしている仲間が、高齢化から少なくなっていることが課題です。活動に興味のある方が今後積極的に関わってくれるといいですね。

③今後の抱負は？

身体が動く限り、花による景観保全活動を継続して続けること、小学校と連携した活動を今よりも活発にできたらと思います。



ふるさと・水と土指導員 佐々木 睦昌さん(中央)と黒沢開田組合の方々

出前授業で楽しく学ぶ



菜の花の搾油体験



授業中

市川南小学校の児童を対象に菜の花の多面的な役割について出前授業を行っています。こうした活動は子どもたちに農業や農村に興味を持ってもらうきっかけとなっています。

農業体験イベントの開催



焼き芋大会



秋のサツマイモ掘り

農業体験イベントは今年で5年目を迎え、全校生徒が楽しみにしている行事になりました。今年は収穫前にサルに食べられる被害もあり、「農業の難しさを感じた」という声もありました。

田んぼの生き物調査



花の郷づくり



種まき機を使っての種まき